
IN ファイル名リスト あるいは 'ファイル名文';

機能：

IN は TSP の作業用データ領域に見つからない変数を自動的にさがすための外部ファイルのリストを定めます。このコマンドは、TSP のデータバンク機能を持っているシステムでのみ使用可能です。(IBM/OS, IBM/CMS, VAX/VMS, Univac 1100)

使用法:

IN に続けて、変数を探すための TSP データバンクの名前を与えます。ほとんどのシステムでは、データバンクにはバイナリーの .TLB ファイルを使っています。

プログラム中で IN ステートメントが現れると、TSP は IN の後に指定した各ファイルから、データのロードが終わっていない変数を順に探しにいきます。IN ステートメントは、別の IN ステートメントに出会うまで有効です。もしファイルの探索が不必要になれば、以前のステートメントを無効にするために引数なしの IN ステートメントをいれて下さい。

IN は SMPL がなければ、データバンク内の最初の系列から FREQ と SMPL をセットします。

例:

ディスク上に TSPDATA.TLB という TSP データバンクを作成し、OUT ステートメントによって GNP, CONS, 等というメンバーを作ります (本マニュアルの OUT の部分を参照して下さい)。

次に、このデータバンクを以下のようにアクセスします。データバンクからデータを引き出す前に、期種と標本期間を指定する必要があります。指定した期種がデータバンクからほしい系列の期種と一致している必要があります。異なっている場合には警告メッセージが出力されます。標本期間は必ずしも同じである必要はありません。TSP は適当に観測値を除いたり、欠測値を埋めます。

```
FREQ A ; SMPL 46 75 ;
IN TSPDATA ;
GENR CONL1 = CONS(-1) ;
OLSQ CONS C GNP CONSL1 ;
```

次のような IN の使用も許されます。

```
IN BANK1 BANK2 BANK3 ;
IN ;
IN USDATA UKDATA DLDATA SWDATA;
```